

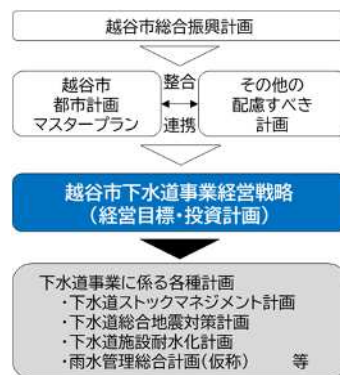
1 経営戦略の趣旨と位置づけ

本市では、下水道事業を取り巻く厳しい環境の中、公営企業として健全な事業経営に資するため、本市の下水道事業における中長期的な経営の基本計画として「越谷市下水道事業経営戦略」を令和2年度に策定しました。

今回の改定は、5年に一度実施する下水道使用料の見直しとあわせて、現状把握、将来予測を行うとともに、経営の目標を設定し、その取組方針、将来の収支計画を取りまとめたものであり、これに基づき下水道事業を経営することで、経営基盤のさらなる強化を図るものです。

また、「越谷市総合振興計画」や「越谷市都市計画マスタープラン」と整合を図りながら、国土交通省及び総務省の要請も踏まえ策定しています。

本市の経営戦略の計画期間は令和8年度(2026年度)から令和17年度(2035年度)までの10年間とします。なお、経営戦略策定の基礎となる投資・財政試算については、30年間の試算を行い、そのうち10年を計画に反映しています。



【経営戦略の位置づけ(イメージ)】



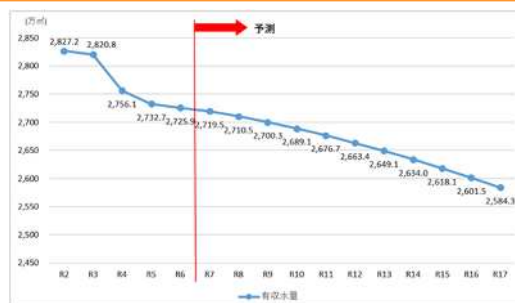
【経営戦略の計画期間(イメージ)】

2 越谷市下水道事業の現状と課題

有収水量の減少

本市の有収水量は、処理区内人口の減少に伴い減少していくことが見込まれます。令和17年度(2035年度)には2,584.3万㎡となり、令和6年度(2024年度)の2,725.9万㎡と比較して5.2%の減少が見込まれます。

有収水量の減少により、将来的な使用料収入の減少が見込まれるため、経営の効率化に取り組むとともに、収支を維持する上で必要となる経営改善の検討が必要です。

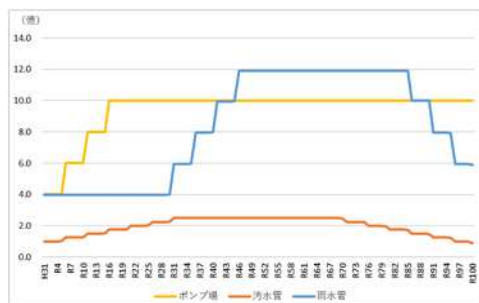


【有収水量の見通し】

施設の状況

本市は総延長約1,083kmにおよぶ管路施設および23箇所のポンプ施設並びに13箇所のマンホールポンプがあります。

これらの施設は最も古いもので60年近い年月が経過しており、本市は下水道ストックマネジメント計画に基づき更新投資の平準化を講じていますが、将来的には老朽化した施設の大量更新期の到来により費用の増加が予測されます。



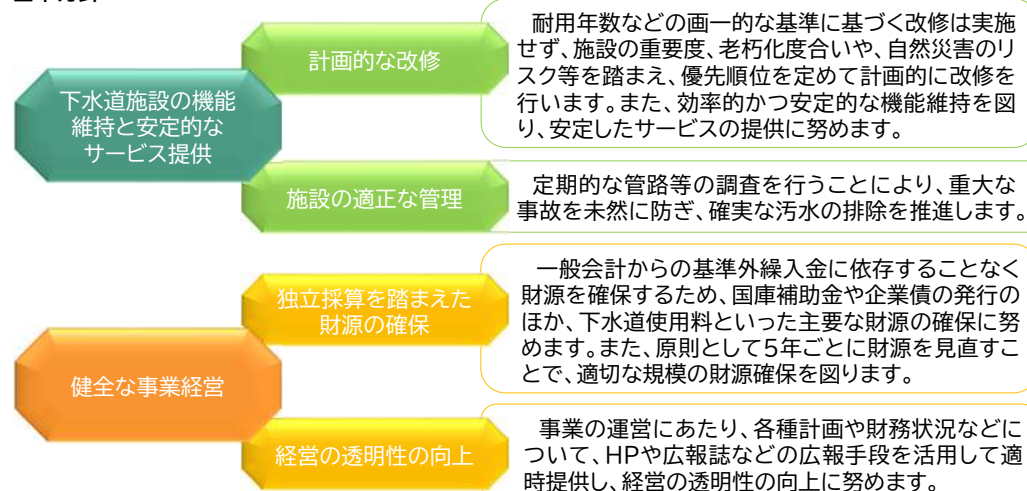
【ストックマネジメント計画の更新投資上限額の見通し】

3 基本方針

基本理念

住民生活における重要かつ基本的なインフラである下水道施設を適切に維持管理し、将来にわたり、安定的に下水道サービスを提供することが可能な経営を目指します。

基本方針

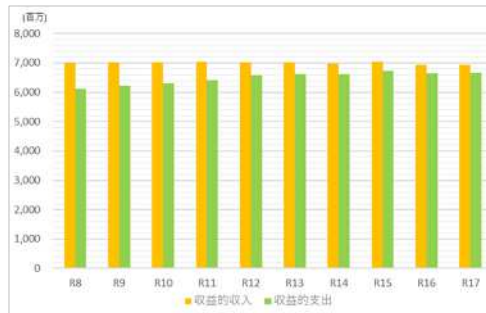


4 投資・財政計画

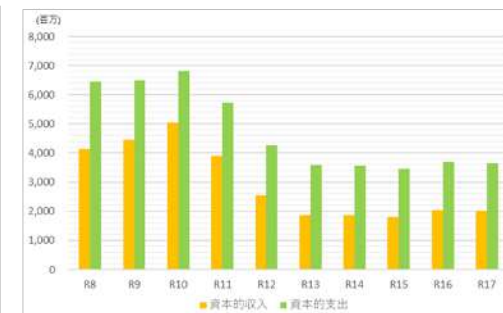
投資試算として、経営戦略期間内に必要となる建設改良費は、計画期間内で約290億円が必要と試算しています。投資以外の経費(維持管理、職員給与、その他)については、計画期間内で約650億円が必要と試算しています。費用削減のための取組を継続して実施していくとともに、ストックマネジメントによる施設の長寿化により、資産の老朽化に伴う大量更新時期を平準化することで、投資の最適化を図ります。

財源試算として、現在下水道使用料体系では、人口減少による減収に伴い将来的に施設の維持管理費を賄うことが出来なくなる見込みであるため、「経営健全化に向けた取組み」を実施した上での投資・財政計画を策定しています。着実な施設の更新投資を行うために、経費の削減に努め、国の繰入基準に基づく繰入金、国・県補助金の確保、世代間負担の公平性を保つための企業債の発行を行います。

なお、下図は「5 経営戦略におけるロードマップ」における経営健全化に関する取組を講じた上での収支計画となっています。



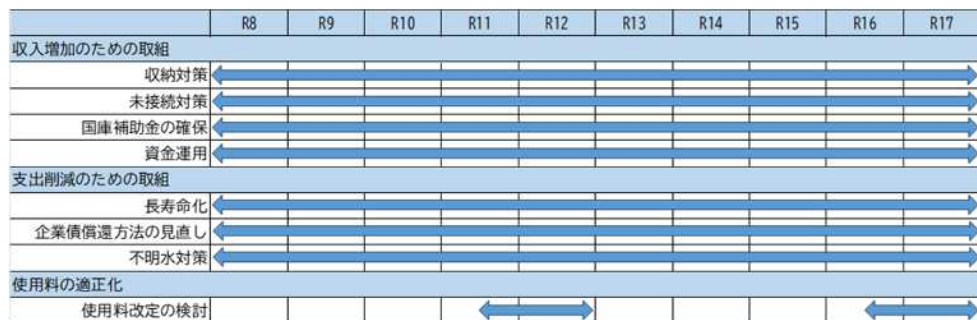
【収益的収支の推移】



【資本的収支の推移】

5 経営戦略におけるロードマップ

経営戦略におけるロードマップに基づき、収入増加のために収納対策、未接続対策、国庫補助金の確保及び資金運用を実施します。また、支出削減のためにストックマネジメント計画に基づく長寿化への取組み、企業債償還方法の見直し及び不明水対策を実施します。

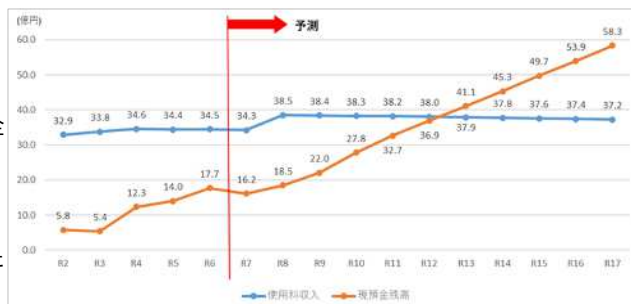


【経営戦略におけるロードマップ】

本市では原則5年毎に、過去4度の下水道使用料の見直しを行っており、これまでの改定で、適正な使用料水準となるよう取り組んできました。令和7年度に下水道使用料の改定の必要性を検討したところ、経営戦略の計画期間内において、経費回収率などの指標の将来的な悪化や、想定以上の降雨や災害のために備えるべき内部留保が不足していることから、使用料改定の必要性が認められました。

このため、令和8年度に下水道使用料を約12%改定し、経営目標の達成を図るとともに、独立採算の原則のもと健全な事業運営を行います。

なお、使用料算定期間(令和8年度～令和12年度)の最終年度までに実績を検証したうえで将来試算を行い、「6. 経営目標」に掲げる経営目標を達成するために必要な使用料のあり方について検討します。



【使用料収入と現預金残高の推移】

6 経営目標

経営方針に基づき、事業を継続的に行うため、健全な事業経営を図る必要があることから、目標値を設定します。

経営・財務面の指標

経常収支比率…令和17年度目標100%以上



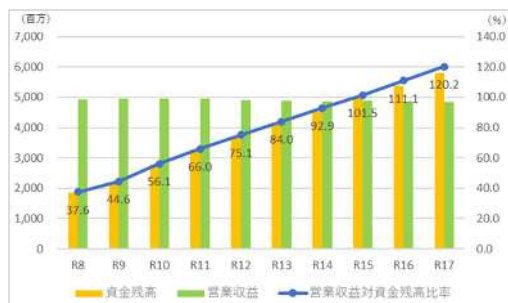
【経常収支比率の見通し】

経費回収率…令和17年度目標100%以上



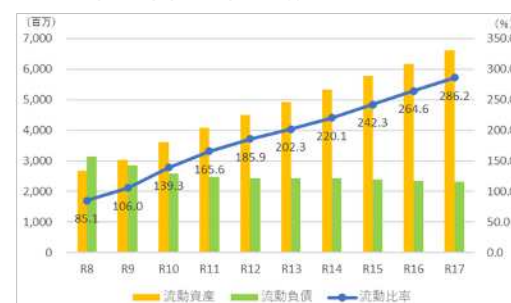
【経費回収率の見通し】

営業収益対資金残高比率…令和17年度目標120%



【営業収益対資金残高比率の見通し】

流動比率…令和17年度目標286%

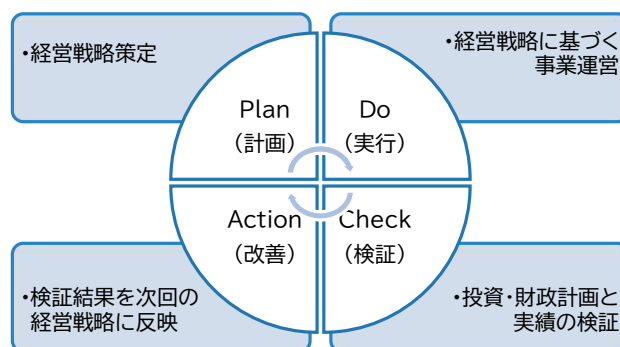


【流動比率の見通し】

7 事後検証・改定

事後検証は、今回改定した経営戦略について、1年に1回の頻度で進捗状況や経営指標を確認し、計画との差異の要因を分析したうえで、公表します。また、改定は、計画の実効性を高め、市の最上位計画である越谷市総合振興計画の基本計画の計画期間との整合性を図るため、原則5年毎に行います。

なお、今回の経営戦略の計画期間である令和8年度(2026年度)から令和12年度(2030年度)は、越谷市第5次総合振興計画後期基本計画の計画期間と一致しています。



発行:越谷市(建設部 下水道経営課)

〒343-8501 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号

TEL:048-963-9206

FAX:048-963-9198

Email:gesuido@city.koshigaya.lg.jp

詳しい内容は本編をご覧ください

※QRコード